



しりあがり寿の現代美術

回・転・展

“KAI・TEN・TEN” Turn, Turn, Turn more!

プレスリリース

Itami City Museum of Art Press Release, October 18

2017

1.14 sat → 3.5 sun

伊丹市立美術館

回せ回せ、
もっと回せ!



開催概要

展覧会名 しりあがり寿の現代美術 回・転・展
Shiriagari Kotobuki: “KAI・TEN・TEN” Turn, Turn, Turn More!
会期 2017年1月14日(土)～3月5日(日) 月曜日休館
開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
主催 伊丹市立美術館 [公益財団法人伊丹市文化振興財団・伊丹市]、朝日新聞社
共催 伊丹市教育委員会

協力 国際ディスプレイ工業、スーパー・ファクトリー
入館料 一般 800(700)円/大高生 450(350)円/中小生 150(100)円
*()内は20名以上の団体割引料金
*兵庫県内の小・中学生はコロンカードの提示にて入場無料
*4市1町(伊丹市・川西市・宝塚市・三田市・猪名川町)の高齢者割引有(平日は60歳以上、土日祝は65歳以上)

©Shiriagari Kotobuki
Photo by MIYAJIMA Kei



ヤカンが静かに回り出す
ゆっくりゆっくりくるりくるり
その姿はこのうえなく美しい
しかし回り出した瞬間、それはもう元のヤカンではない（中略）
… ヤカンは回って芸術となった

しりあがり寿「回転宣言」より抜粋

しりあがり寿（1958- ）は、「弥次喜多 in DEEP」や朝日新聞に連載中の「地球防衛家のヒトビト」など独特のシュールなギャグマンガで知られるばかりでなく、近年はエッセイや演劇、音楽、ゲームの分野でも幅広く活躍しています。また国内外の展覧会で墨絵や映像を用いたインスタレーション作品を発表し、アーティストとしても高く評価されています。

いずれの仕事にも通底するのは、現代の世相の暗部を照らし出す批評精神と社会の弱者に寄り添う優しさです。それらをユーモアで包み、唯一無二の世界を創出してきました。東日本大震災後の日本を描いた『あの日からのマンガ』などは記憶に新しいところです。

美術館での初の本格的な個展となる本展では、しりあがり寿がここ数年強く関心を抱く「回転」をテーマに、新旧の作品を織り交ぜながら、マンガという枠に収まらない表現者としてのしりあがり寿像に迫ります。

グルグルグルグルグルグル♪ やかんから美術作品、映像、日用品まであらゆるものが会場で回り始める大規模な新作は必見です。

回転とは何か？ — 停滞の美学か、物語からの脱却か、存在の根源か、インスタント存在アップ術か。—
ギャグとシリアス、ナンセンスと哲学、サブカルチャーとアートなど様々な境界線上から独自の表現を試みるしりあがり寿の感性が、観る者の脳内を刺激することでしょう。

常識を揺り動かす、この不思議な「回転」をお楽しみください。

*しりあがり寿『しりあがり寿の回・転・界』『あとがき』より

作家プロフィール

しりあがり寿 Shiriagari Kotobuki

1958年静岡市に生まれる。1981年多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業後キリンビール株式会社に入社し、パッケージデザイン、広告宣伝等を担当。1985年単行本『エレキな春』で漫画家としてデビュー。1994年独立後は、幻想的あるいは文学的な作品など次々に発表、新聞の4コママンガから長編ストーリーマンガ、アンダーグラウンドマンガなど様々なジャンルで独自の活動を続ける一方、近年では映像、アートなどマンガ以外の多方面に創作の幅を広げている。

〔主な受賞歴〕

2000年『時事おやじ2000』『ゆるゆるオヤジ』で文芸春秋漫画賞、2001年『弥次喜多 in DEEP』で手塚治虫文化賞・優秀賞、2012年には東日本大震災後の日本を描いた『あの日からのマンガ』で第15回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞を受賞。2014年春の叙勲で紫綬褒章を受章。

〔主な展覧会〕

2006年「日本×画展 しょく発する6人」（横浜美術館）、2011年「秋山祐徳太子+しりあがり寿 ブリキの方舟」（広島市現代美術館）、2012年「しりあがり寿★ワールド ゆるとびあ」（横浜市民ギャラリーあざみ野）など。





展示構成と見どころ

芸術なのか？

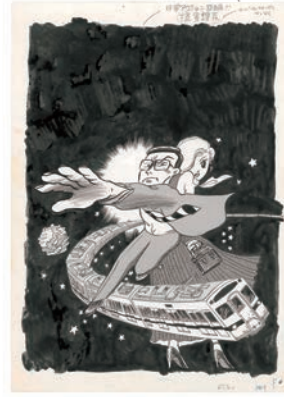


マンガ・墨絵・アニメーション 約 70 点

- 1) マンガの代表作原画・イラスト原画
- 2) 墨絵（インスタレーション）
- 3) ゆるめ〜しょん

（映像インスタレーション：12 種類のコンテンツで構成予定）

記念すべきデビュー作『エレキな春』から代表作『弥次喜多 in Deep』まで貴重な原画を一挙公開。さらに、壁面全体に和紙を貼って描く墨絵インスタレーションやロトスコープの技法を用いたゆるめ〜しょんを通して、アーティストとしてのしりあがり寿の活動を紹介します。



「流星課長」原画
『週刊少年サンデー』創刊 25 周年記念増刊号 1984 年 4 月

どんな満員電車で座って帰る伝説の課長が大活躍。かつて庵野秀明が松尾スズキを主役の実写化したことでも知られています。



「地球防衛家のヒトビト」原画
『朝日新聞』夕刊 2002 年 4 月 1 日（地球防衛家初出動）

時事ネタを扱った 4 コママンガ。2011 年には東日本大震災を大きく取り上げました。同じく同震災を描いた『あの日からのマンガ』では 2014 年春に紫綬褒章を受章しています。



回転作品（インスタレーション）10 点

- 1) 回るヤカン
- 2) 回転派のアトリエ
- 3) 回転派の静物画
- 4) まわる歴史
- 5) 回転体は行進するダルマの夢を観る
- 6) 赤いネジ
- 7) 回る白昼夢
- 8) 回転道場
- 9) ビリオド
- 10) 回る地元 * 伊丹会場特別出品

何かのメッセージか？

ヤカンが回り、アトリエが回り、歴史が、ダルマが、ネジが、そして日常までもが回転しはじめ、会場全体がしりあがり寿ワールドに包まれます。当会場のために新作《回る地元》も制作。本展の全国巡回は当館が最後です。どうぞお見逃しなく！

*展示構成は実際の展示順と異なる場合がございます。

いったい何なのか？

ひたすらクルクルと回る
たくさんの回転が
皆さまに何かを訴える
でしょう。

関連イベント



超講義 世界は回転でできている
菊池 誠（物理学者／大阪大学教授）、しりあがり寿ほか
2017 年 1 月 14 日（土） 14:00～
美術館展示室
聴講無料（要当日観覧券）／申込不要



スペシャル回転グルグル対談
中沢新一（人類学者／明治大学野生の科学研究所所長）× しりあがり寿
2017 年 2 月 11 日（土祝） 15:00～
美術館 1F 講座室
定員 100 名／聴講無料（要当日観覧券）／申込不要（当日先着順）



《回転道場》2016 映像 20 分 02 秒（ループ）

老師を支える巫女役に女優・緒川たまき。そして弟子役に、映画監督・深田晃司（映画『淵に立つ』2016 年カンヌ国際映画祭ある視点部門審査員賞 受賞）など、幅広い出演者も見もの。

展覧会 ホームページ



特設サイト <http://saruhage.com/kaiten/>
伊丹市立美術館 ホームページ <http://artmuseum-itami.jp>

背景：《回る白昼夢》会場イメージ図 2016

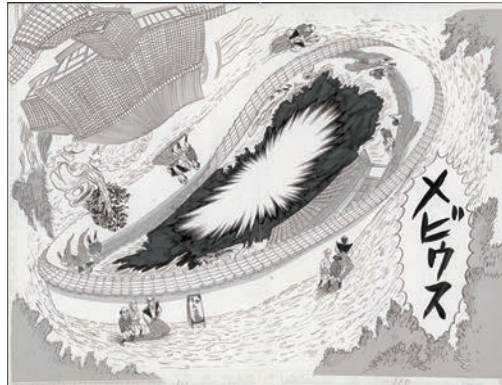


広報用画像

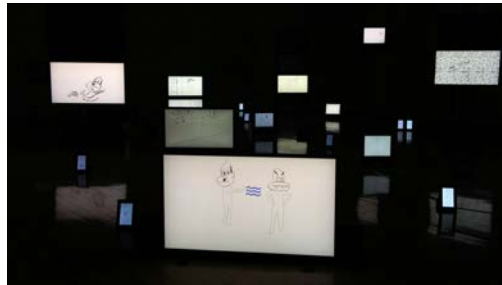
*いずれの画像も使用時には次のクレジットを表記ください： ©Shiriagari Kotobuki
*作品のキャプションおよび写真に関するクレジットは、各画像の下に付しています。



1 「真夜中の弥次さん喜多さん」
口絵 2005



2 「弥次喜多 in DEEP」原画 『月刊コミックビーム』
1992年2月号



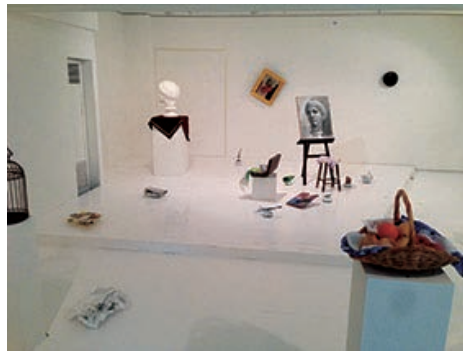
3 《ゆるとびあ》2012 / 横浜市民ギャラリーあざみ野
での展示風景



4 《オレの王国、こんなにデカイよ》
2006 / 横浜美術館での展示風景
撮影：菅谷守良
写真提供：横浜美術館



5 《回るヤカン》2016
撮影：宮島径



6 《回転派のアトリエ》2014 / art space kimura
ASK? での展示風景
写真提供：art space kimura ASK?



7 《まわる歴史》会場イメージ図 2016



8 《回転体は行進するダルマの夢を見る》2014 /
箱根彫刻の森美術館での展示風景



9 《ピリオド》会場イメージ図 2016



「しりあがり寿の現代美術 回・転・展」展 広報用画像申込書

下記ご記入の上、F A Xにてご送信ください。追って画像データをメールにてお送りいたします。

なお、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展の招待券を読者／視聴者プレゼント用に提供いたします。ご希望の方は、併せて下記チェック欄にご記入ください。

なお、画像データの使用に際し、下記の点についてご注意ください。

- ・画像データは申請された目的以外には使用しないでください。所蔵者および著作権者との取り決めにより、営利を目的とした商品などへの掲載、会期終了後の掲載は許可されていません。
- ・ご使用の際は、画像のキャプションならびにクレジットの表記をお願いします。
- ・部分使用やトリミング、図版の上に文字を重ねるなどの処理はご遠慮ください。
- ・本展記事をご紹介くださる際は、情報確認のため、校正を必ずお送りください。また掲載された刊行物、DVD、CD 等も当館に一部ご寄贈ください。

希望画像 no. :	画像名 :
希望画像 no. :	画像名 :
希望画像 no. :	画像名 :

□チケットプレゼント用招待券（5 組 10 名様分）

* チケットプレゼント以外でのご使用はご遠慮願います。

*10 枚未満の枚数をご希望の方はご相談ください。

掲載媒体名 :	
あてはまる種別に○をおつけください。	
媒体種別：新聞／雑誌／フリーペーパー／テレビ／ラジオ／ネット媒体／その他	
掲載予定日 :	
御社名 :	
ご担当者名 :	
E メールアドレス :	@
ご住所 :	〒
電話番号 :	F A X 番号 :

〔会場情報〕

伊丹市立美術館 | 兵庫県伊丹市宮ノ前 2-5-20

- 阪急伊丹駅より徒歩北東へ約 9 分, JR 伊丹駅より徒歩北西へ約 6 分

- 阪急バス系統 56 〔阪神尼崎⇄川西ターミナル〕伊丹中央下車徒歩北へ 3 分

* 美術館には専用駐車場はありません（宮ノ前地下市営駐車場等をご利用ください）

【本展覧会に関するお問合せ先】

伊丹市立美術館

tel.072-772-7447 fax.072-772-5558

<http://www.artmuseumitami.jp>

展覧会担当：藤巻 / 広報資料請求：斉藤、玉澤